

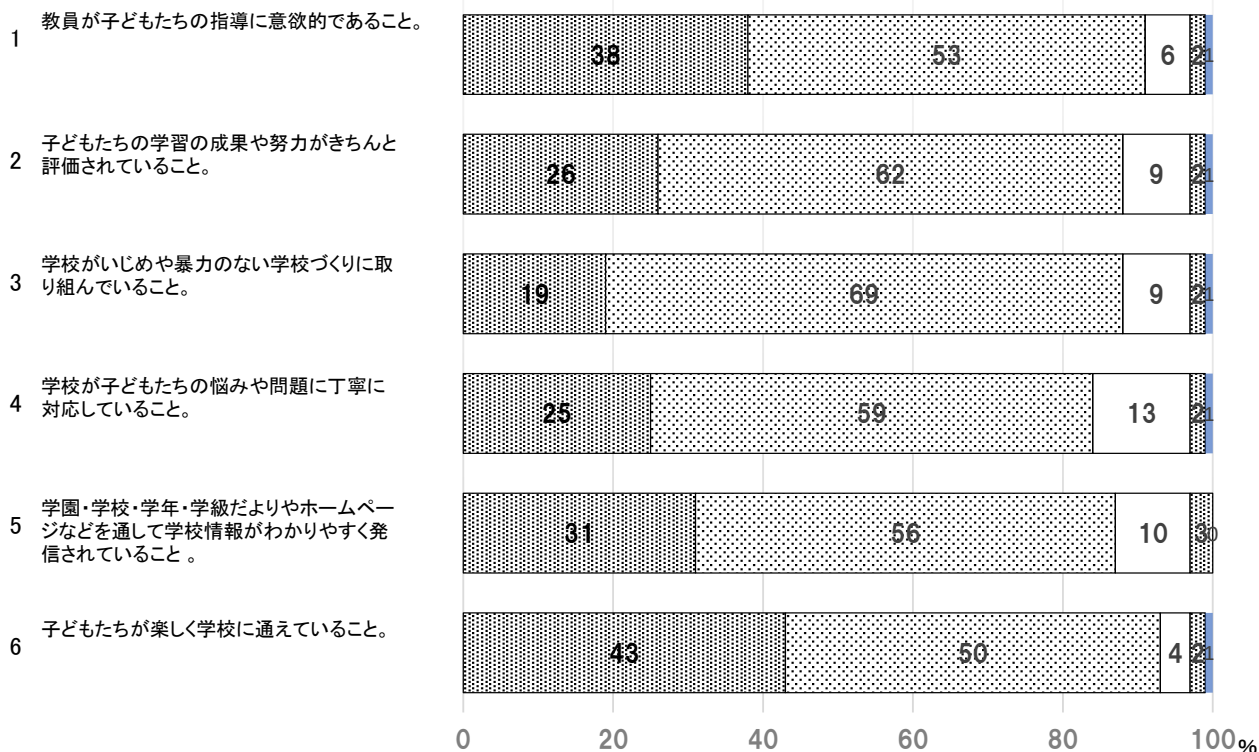
令和5年度 三鷹中央学園 学園・学校評価アンケートまとめ

【第三小学校】

資料 3

アンケート実施日 : 令和5年10月20日～10月31日
 アンケート対象者 : 第三小学校保護者
 回収率 : 418/児童数730(57%)

よく出来ている
 大体出来ている
 あまり出来ていない
 出来ていない
 未回答



アンケート結果から得られた成果と課題

※「肯定的回答」…「よく出来ている」「大体出来ている」の合計
 ※「否定的回答」…「あまり出来ていない」「出来ていない」の合計

成果

教員が意欲的に子どもと向き合い指導し、学習の成果や努力が評価されているかという質問①②においては、昨年同様の結果でありました。今年度は、「児童の文脈で学習できる単元開発」を組織目標として取り組んできたことが昨年の結果を維持できた要因であると考えます。いじめや暴力のない学校づくりについての質問③においては、肯定的な回答が約6ポイント、子どもの悩みや問題に丁寧に対応しているかという質問④については、約1ポイント向上したことは成果です。今年度校務分掌を改定し、教育支援インフラパートとして、コーディネーターのマネジメントに特化し、校内委員会を充実させたこと等からその効果を感じます。学校の広報に関する質問⑤や子どもが楽しく学校に通うことができている質問⑥においては、全年度より肯定的評価が微増しました。少しずつではあるが、本校の子どもたちの学びに着目した改革に対する理解が進みつつあると考えます。

課題

学園生の自立した学びを学園研究のテーマとして掲げ、本校では、「児童の文脈で学習できる単元開発」を組織目標、並びに校内研究主題として今年度より取り組んでおりますが、そのためには、大人が学力論の原理転換を行わなければ、実現できません。教員は、1学期から具体的な単元開発を通して、児童の学びの姿の変容に喜びを感じ、学年協働で喜々として単元開発に取り組みました。今までのテストの結果だけで測る見える学力、単なる知識・技能の量を求める学力ではなく、活用できる知識・技能を育むための思考力・判断力・表現力や学びに向かう力等の目には見えない学力、非認知能力にまで拡張した力を基礎基本と考える学力論の転換が図れております。この力は、将来にわたって生きる力となり、受験においても大いに発揮される力です。本校の取組に理解していただくためには、大人の学力論の原理転換がなければ、児童一人一人の学びの改革には至りません。学力論の原理転換こそが、最大の課題であります。